



平成 31 年 3 月 1 日(金)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 河崎 晃 二

# 開四小だより

## 3月号

2050年に向けて

校長 河崎 晃 二

今年度も残り17日間となりました。4月になると子供たちはそれぞれ学年が上がり、6年生はよいよ中学生です。桜の芽が膨らみ、春の開花の準備をするように、子供たちも4月から自信をもってスタートできるように準備をしています。

\*

さて、先日都内のある小学校の研究発表会に行ってきました。研究主題は「21.5世紀を拓く」です。「21.5世紀」とは「21世紀+半世紀」という意味で「2050年」となります。30年後には、今の小学生は40歳代となり日本及び世界を中心となってリードしていく世代となります。そのため今現在、育てなければならない力とはいったい何なのか。小学校でどのような学習を進めていったらよいのかという壮大な研究主題でした。

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が予測を超えて進展するようになってきました。2045年にはAI「人工知能」は人類を超えると予測されています。これまでになかったものが新たに生まれる可能性もあります。しかし、AIがいかに進化しようとも、行っていることは人間が与えた目的の中での処理でしかありません。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自分で考え出すことができます。また、さまざまな文脈が入り交じった環境の中でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、目的達成のために必要な情報を見つけ、その情報を基に自分の考えをまとめたり相手に伝わるふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多くの人と協働しながら目的に応じた納得する解決方向を見いだしたりすることができる強みをもっています。

その強みや必要な力を成長の中で育んでいくのが、学校や地域社会、家庭での学習です。新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が予測できない変化に、受け身で対処するのではなく主体的に向き合い他者と関わり合い、その過程を通して自分の可能性を発揮してよりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることです。

2020年度から完全実施する小学校学習指導要領には、そのような願いが込められています。私は、子供たちの将来の姿として「自立」「創造」「共生」の3つの事をキーワードにして、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための「生きる力」を育成していくことだと考えています。これが実現できるよう開進第四小学校の職員一同頑張っていきたいと思っています。